

令和 3 年度地域包括支援センター一運営評価

令和3年度地域包括支援センター運営評価の実施方針

1 評価の目的

地域包括支援センターの人員体制及び業務状況を定期的に把握・評価し、事業の質の向上のために必要な改善を図り、地域包括ケアシステムの深化に向けた取組を加速させることを目的とする。

2 評価根拠

- 介護保険法第115条の46

市町村は、定期的に、地域包括支援センターにおける事業の実施状況において、評価を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。

- 地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について

平成30年7月4日付け老振発0704第1号厚生労働省老健局振興課長通知により、「市長村及びセンターは、所定の評価指標による取組等の確認を行い、市町村は、自身の結果と管内センターの結果について、都道府県を通じて厚生労働省へ報告を行う」こととされている。

3 評価の流れ

- 評価項目ごとに地域包括支援センターが自己評価を行う。
- 青森県を通じて地域包括支援センターの自己評価の結果を厚生労働省へ報告する。
- 厚生労働省において、全国の結果を集計後、県を通じて結果が周知される。
- 地域包括支援センターの自己評価と厚生労働省が集計した全国の結果を、地域包括支援センター運營業務委託の契約継続の観点を含め、地域密着型サービス等運営審議会において点検を行い、地域包括支援センターの課題を踏まえた機能強化策の検討を行う。

4 評価結果の公表

- 評価結果は、今後の取組の質の向上のために、地域包括支援センターごとに7つの業務区分※に沿ってレーダーチャート化した上で、各地域包括支援センターに示すとともに市ホームページでも公表する。

※ 7つの業務区分

- 1 組織運営体制等（組織運営、個人情報管理、利用者満足向上）
- 2 個別業務（1）総合相談支援
（2）権利擁護
（3）包括的・継続的ケアマネジメント支援
（4）地域ケア会議
（5）介護予防ケアマネジメント・介護予防支援
- 3 事業間連携（社会保障充実分事業）

1 地域包括支援センターおきだて 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・今後も継続して地域における連携を強化しながら、専門職や地域住民が互いに相談できる関係性や仕組みをつくるための課題を把握する。
- ・全世代の地域住民に、認知症の理解や対応について普及啓発する
- ・認知症になっても地域で安心して暮らせるように、認知症高齢者への見守り体制を構築する、
- ・多世代・他分野の課題を意識して幅広い分野の関係機関との連携を進めていき、包括的・継続的ケアマネジメントの強化につながる環境整備に取り組む。

【実施結果】

- ・地域における連携を今後も強化して継続していくこと、特に働く世代や若い世代への連携の強化を今年度は実施した。
- ・相談できる関係づくりや相談しやすい関係づくりを地域、企業などへ普及啓発してきたことから企業からの相談なども増え、協力できる体制も徐々にできてきている。

【評価・課題分析】

- ・地域における連携を重点的に活動してきたものの、コロナ禍であり感染予防の観点からワーキンググループの立ち上げはできなかった。
- ・地域における連携と課題の把握と解決策の検討を図るため、地域ケア会議を毎月実施した。
- ・地域課題に関する取組も小グループで、地域、専門職を交えて連携作りも行った。
- ・地域住民への普及啓発、幅広い分野の関係機関との連携に関しても感染予防に努め可能な限り実施したが、コロナ禍であり困難な部分もあった。

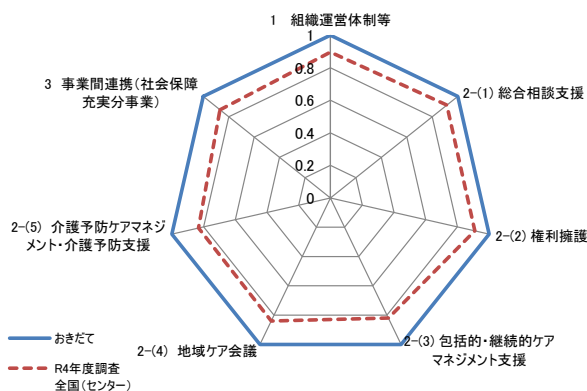
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制; 高齢者虐待 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
1 おきだて	985	1,491	9	3	0	5	15	0	1	1	76	0

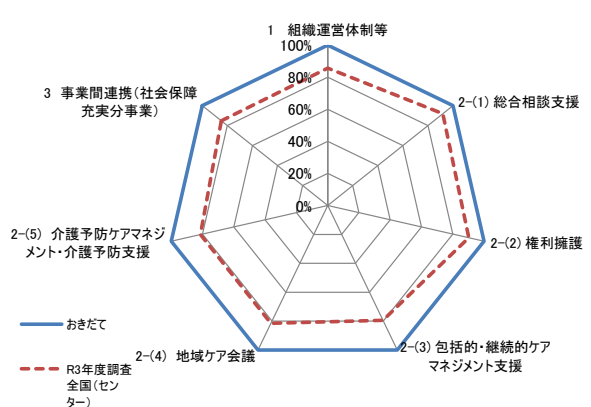
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っており、全ての項目が達成されている。

2 地域包括支援センターすずかけ 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・地域ケア会議を開催することにより、個別課題から地域課題を抽出する。
- ・介護予防普及啓発を行い、地域高齢者の運動器機能低下防止や認知機能低下予防を図る。

【実施結果】

- ・新型コロナウイルス感染により、地域ケア会議等の開催においては、必要最低限の人数に調整し、また密にならないよう自宅外などで短時間で取り組むようにした。
- ・民生委員などから、オンライン開催に対しては対応が難しいとの声が聞かれ、オンライン等による開催はできなかった。
- ・こころの縁側事業や集いの場の開催等の活動の場が制限された。

【評価・課題分析】

- ・当センターは老人保健施設内に併設されていることもあり、職員を介しての入所者へのコロナウイルス感染を予防するため、感染対策に細心の注意を払う必要があり、地域に積極的に向かい出す活動も制限するに至った。
- ・地域ケア会議等については、オンライン環境の整備等を行い、柔軟に会議の開催ができるようにしていく。
- ・介護予防普及啓発については、更に教材も活用しながら工夫し行っていく。

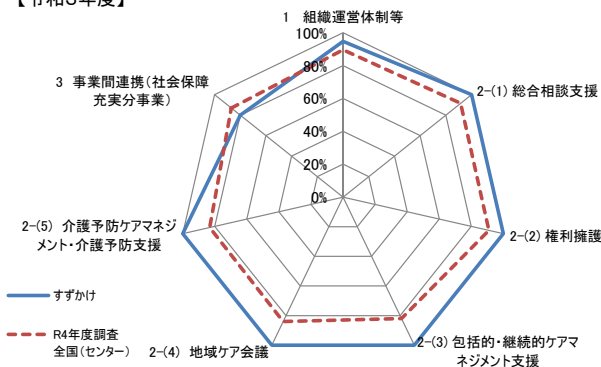
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制; 高齢者虐待 度(件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)							
2 すずかけ	732	2,400	5	1	1	7	8	0	4	1	49	0

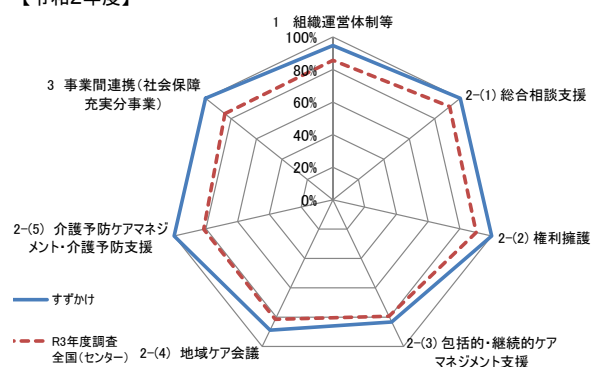
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・3事業間連携以外は、すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善された項目は、2-(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援、2-(4) 地域ケア会議である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
1組織運営体制等 7 3職種(それぞれの準ずる者は含まない)を配置しているか。	・保健師に準ずる者(地域ケア等に関する経験のある看護師)を配置している。	・人員基準は満たしているものの、原則として保健師を置くこととされていることから、保健師の確保を目指す。
3事業間連携(社会保障充実分事業) 55 生活支援コーディネーター・協議体と地域における高齢者のニーズや社会資源について協議をしているか。	・地域ケア会議等の開催はしたものの、コロナ禍により、参加者の制限等を行っており、連携が不十分であった。	・地域ケア会議や地域支え合い会議等、それぞれが開催する会議において、連携を図る。

3 中央地域包括支援センター 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・地域の高齢者に感染防止について正しい情報を普及啓発し、地域の感染防止対策を強化することで地域の集いの場の継続を支援する。
- ・地域の関係機関、自治会、地区社協などと連絡をとり、地域の高齢者のニーズを早期発見できる関係性を維持していく。
- ・認知症があっても住み慣れた地域で生活が継続できるよう、コロナの感染対策を講じながら認知症の方への対応、見守りについて普及啓発していく。
- ・コロナ禍においても、感染対策を講じて介護予防普及活動を継続していく。

【実施結果】

- ・こころの縁側事業などで、感染予防に対する基本的な知識や新型コロナウイルスのワクチン接種などの健康教育の出前講座を行うことができた。
- ・支え合い推進員や民生委員などと連携し、地域の高齢者の支援やニーズに対応した勉強会の開催が出来た。
- ・認知症の高齢者やその家族が地域での生活を継続していくために、近隣住民や家族、多職種と共に協力し、見守りなどのネットワークの構築に努めた。

【評価・課題分析】

- ・地域の見守りがあっても、元々地域との繋がりの希薄さから、問題が大きくなってから表面化するケースや、高齢者と障害がある介護者に対し複合的な支援が必要なケースなどの増加から、多職種連携や高齢者及び家族への包括的な支援が必要である。
- ・認知症高齢者や複合的問題を抱えている利用者、また支援になかなか繋がらない高齢者やその家族への支援など、地域住民、関係機関、行政も含めた支援体制づくりが益々重要となる。

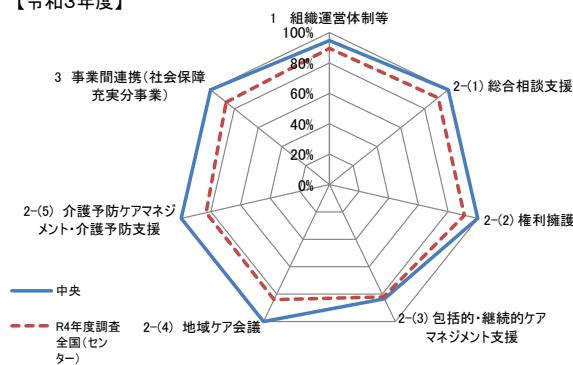
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
3 中央	696	1,514	6	1	0	2	8	0	1	1	106	0

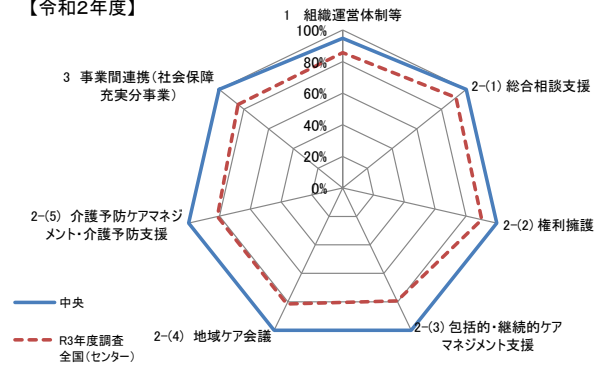
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、1組織運営体制等が改善されず、2-(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援にできなかった項目があった。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
1組織運営体制等 7 職種(それぞれの準ずる者は含まない)を配置しているか。	・保健師に準ずる者(地域ケア等に関する経験のある看護師)を配置している。	・看護師を配置し人員基準は満たしていたが、令和4年9月に看護師の他に保健師も配置された。
2-(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援 32 介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会等の開催計画を策定し、年度当初に、指定居宅介護支援事業所に示しているか。	・研修会や事例検討会の開催計画は作成しているものの、圏域内の指定居宅介護支援事業所に示していない。	・策定した開催計画については、圏域内の指定居宅介護支援事業所へ示す。

4 東青森地域包括支援センター 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・地域包括支援センターについて、若い世代を含めてより多くの地域住民へも周知し、支援を必要とする方の早期把握と対応につなげていく。
- ・医療関係者、介護関係者との連携を強化するとともにネットワークを構築し、新たな社会資源をつないでいくことで多様性を持った支援体制を構築していく。
- ・認知症の正しい理解や認知症ケアパスの普及啓発の活動を継続し、認知症の方本人や家族、地域住民、支援者が適切に認知症に対応できる環境づくりを進めていく。
- ・介護予防普及啓発活動の周知を図り、定期的な運動の動機づけを行うことで住民が主体となって継続的に集える場について、新規発掘を行う。
- ・すでに住民主体へ移行している活動団体について、今後も連携を図り後方支援を行う。

【実施結果】

- ・健康寿命の延伸と介護予防の推進を目的に、定期的な運動の動機付けと新規の活動団体の開拓を目標とし、普及啓発や既存団体の自主活動化を計画していたが、新型コロナウイルスによる活動制限や自粛により、新規の活動団体の立ち上げには至らなかった。
- ・既存団体への後方支援や、休止期間中の団体責任者へ状況確認や助言を行うことで継続開催に寄与することができた。
- ・地域ケア会議や個別ケースの対応において、医療・介護職ほか幅広い関係者を参集し、地域課題の情報共有と、課題の意見交換を行い、連携を図ることができた。
- ・認知症カフェや認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民へ認知症に対する正しい理解を促すとともに、認知症ケアパスを活用し認知症への対応方法について周知をはかった。

【評価・課題分析】

- ・介護予防の必要性を地域住民が感じているものの、介護予防活動を継続して行うための会場やまもめ役の不足、主には新型コロナウイルス感染症の蔓延など様々な課題があり、新規の活動団体の開拓までには至らなかった。
- ・既存の活動団体への後方支援を行っていくとともに、新型コロナウイルス感染症対策を取り入れた運営の助言等、活動の継続支援へも力を入れ、高齢者の社会参加、生きがいや介護予防に繋がれるよう努めていく。
- ・今後も地域における繋がりを活かしながらネットワークを構築し、新たな社会資源に繋いでいくことで多様性を持った支援体制を整備するとともに医療・介護サービスが効率的・効果的に提供されるよう、関わりを継続していく。
- ・認知症については、初期の段階から介入し、安心して地域の中で暮らし続けることができるよう認知症ケアパスの普及啓発などによる認知症の支援体制づくりは今後も重要と思われる。地域住民に対する働きかけはもちろん、介護・医療従事者に対して認知症の対応力向上のための研修を実施し、引き続き連携の推進を図っていく。

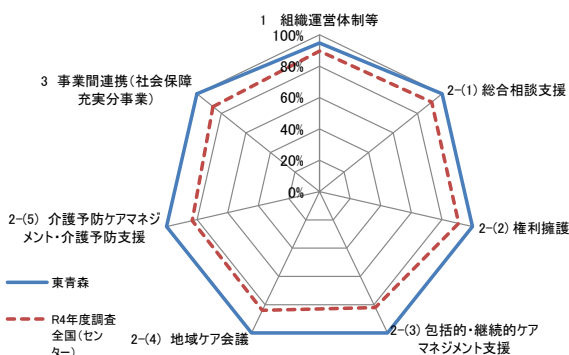
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
4 東青森	1,458	2,898	3	5	2	1	16	1	4	1	73	1

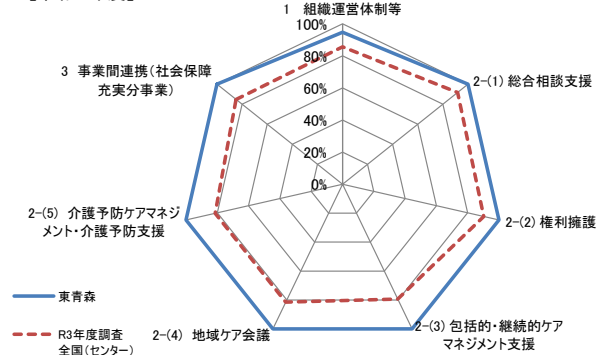
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、1組織運営体制等が改善されなかった。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
1組織運営体制等 7 職種(それぞれの準ずる者は含まない) を配置しているか。	・保健師に準ずる者(地域ケア等に関する 経験のある看護師)を配置している。	・看護師を配置し人員基準は満たしていた が、令和5年1月に看護師の他に保健師も 配置された。

5 南地域包括支援センター 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・コロナ禍でも感染対策を徹底した上で、地域住民と一体となって介護予防・重度化防止、孤立化防止、居場所づくり等に向けた地域活動を実施する。
- ・かかわりの薄かった地区の介護予防対象者把握事業、集いの場の新規発掘を行い、その地区で行われている活動の把握や支援を行う。
- ・支援の長期化や複合的課題を抱えた世帯への支援に対応するために、制度や分野の垣根を超えた関係機関とのネットワークを強化し、埋もれていた地域の社会資源を発掘し有効活用していく。
- ・介護予防対象者把握事業、地域ケア会議、総合相談実績等の事例を分析し地域課題を整理し、政策形成へつなげる。
- ・地域住民に向けて地域包括支援センターの周知をより一層推進し、積極的に地域に出向いて地域住民や地域関係者との顔の見える関係づくりを進める。
- ・認知症高齢者や若年認知症の方への支援強化を図る。

【実施結果】

- ・コロナの影響で地域活動が一時中止となったが、包括が感染対策の説明と定期参加をしたことで活動を再開、継続することができた。
- ・高齢者の集いの場となっている身近な施設(スーパー、銭湯、郵便局、銀行)への周知活動は行うことができなかった。
- ・コロナ新規開拓予定の地区や町会では、コロナ等の理由により開拓まで至らなかった。
- ・年4回の広報誌配布の際に町会長と関係づくりをし、包括の役割について周知を行った。
- ・介護予防対象者把握事業を予定していたが、コロナのためできなかった地区があった。在宅介護支援センターと戸別訪問できた地区には包括の周知を行った。
- ・昨年度から居宅部会で作り始めた地区別社会資源リストが完成し、各居宅介護支援事業所へ配布することができた。利用状況については今後、確認予定。
- ・長期化や複合的な課題を抱えた世帯へ、他機関と協力しながら支援することができたが、埋もれていた地域の社会資源発掘へは至らなかった。
- ・今年度はチームオレンジ立ち上げの為に地域別に地域ケア会議を行ったことで新たに、町会の関係者などとの関係構築や実態把握、ケースの掘り起こしなどを行うことができた。
- ・地域ケア個別会議は、居宅介護支援事業所から事例提供してもらい、ケースごとに専門職を選定しオンライン形式で参加してもらい、目標の12回達成できた。
- ・実態把握、地域ケア会議、アンケート調査などを通じて、地域の現状や課題を把握することができた。

【評価・課題分析】

- ・地域により相談に繋がりにくく重症化するケースもあることから、独居高齢者の健康状態の把握については一層注意を払っていく必要がある。
- ・認知症多職種協働研修会において、戸別訪問から得た住民の認知症に関するご意見について検討できたことから、今後も戸別訪問を継続していく必要がある。
- ・支援の長期化や複合的課題を抱えた世帯への支援に対応するため引き続き、ネットワークの拡大や地域資源の発掘、有効活用が課題。
- ・相談内容の多様化等により、多機関とのチームアプローチや地域ケア会議等を通してネットワークの構築、対応力向上を図ることが今後より一層求められる。
- ・地域ケア個別会議をより効果的に進めるために、今後も専門職の選定や実施後のフォローなどにより、ケアマネ支援を強化していく必要がある。
- ・地域別の地域資源リストを作成し、居宅介護支援事業所に活用を促しており、更に活用しやすくするための今後の内容のアップデートと情報提供の即時性が課題である。
- ・チームオレンジ立ち上げに向けて具体的に計画・実行し、ピアサポート活動も視野に入れた認知症への取り組みも検討していく。
- ・高齢者が集う施設(スーパー、銭湯、郵便局、銀行)へ出向き、南包括のチラシを置いてもらうなど、包括の周知活動を行っていく必要がある。
- ・地域ケア個別会議と圏域会議での分析から南圏域の地域課題が見えてきたため来年度には居宅部会でケアマネと情報共有していく必要がある。

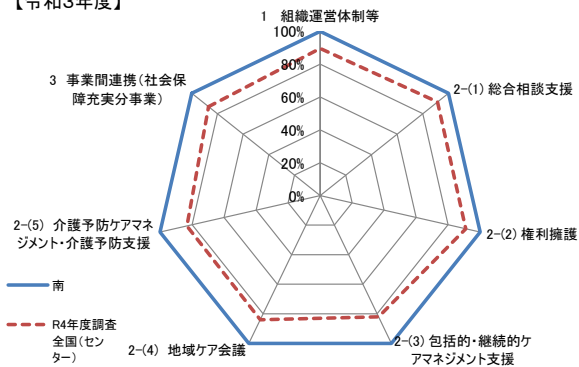
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
5 南	852	1,303	2	4	0	14	21	1	13	7	66	2

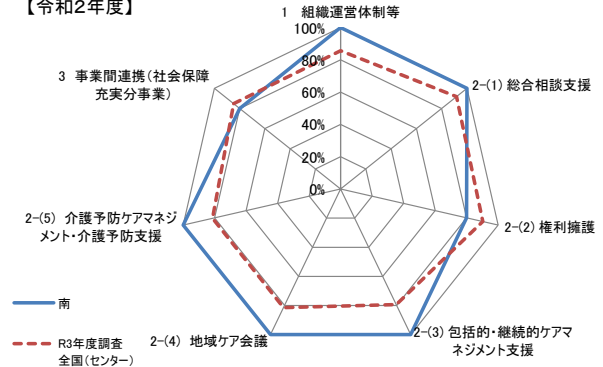
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っており、全ての項目が達成されている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの項目は、2-(2)権利擁護、3事業者間連携である。

6 東部地域包括支援センター 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・薬だけに頼らず生活習慣改善に繋がるよう、高血圧症と便秘に関する健康講話を圏域各地で行う。
- ・出前講座や介護予防普及啓発事業で、フレイル予防(口腔機能を含む)の講話を行う。
- ・回覧板等活用し権利擁護を周知する。
- ・出前講座や地域イベントに参加し、権利擁護と認知症について広報する。
- ・社会資源訪問にて情報を把握し、社会資源マップに整理・更新する。
- ・民生委員や町会長、総合相談等から、閉じこもりによる、認知機能低下やうつ傾向が疑われる方々の把握に努め、集いの場に繋げるための個別訪問を行う。
- ・圏域内の事業対象者や要支援認定者が自立又は介護予防に繋がるように、センター及び居宅介護支援事業所ケアマネジャーに、自立に資するマネジメントを指導・助言する。

【実施結果】

- ・新型コロナウイルス感染症により、多くの地域活動が中止となり、生活習慣病予防、フレイル予防、権利擁護や認知症予防の講話を実施することが出来なかった。
- ・回覧板を活用した権利擁護周知は、2か月に1回担当圏域全町会に当センター広報誌を回覧する事で周知できた。
- ・社会資源訪問は新型コロナウイルス感染症により2件のみで、包括の活動は町会回覧による広報誌での周知を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症により、予定していた会場が使用できず、出張相談会・もの忘れ相談会・認知症サポーター養成講座・認知症勉強会を開催できなかった。
- ・圏域内の2地区で高齢者個別訪問を実施し、地域での健康課題を把握することが出来た。
- ・介護予防支援・介護予防ケアマネジメントを委託している居宅介護支援事業所の介護予防支援・介護予防マネジメントサービス計画書等を確認・分析できず、指導・助言には至らなかった。

【評価・課題分析】

- ・新型コロナウイルス感染症により、会場が使用できず、地域活動が出来ない事が多かったことから、来年度は対面以外の方法で健康や介護予防、認知症について周知できるよう工夫が必要である。
- ・回覧で権利擁護の周知が出来ており、今後も継続していく。
- ・圏域内の介護保険サービス事業所に対しても必要に応じて情報提供し、相談やネットワーク構築に努めていく。
- ・新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら訪問や行事等を実施していく必要がある。
- ・民生委員児童委員協議会で、閉じこもりによる心身機能への影響の理解や介護予防対象者把握事業の周知を行い、低下が疑われる段階で集いの場へ繋げるようにしていく。
- ・介護予防支援・介護予防ケアマネジメントを委託している居宅介護支援事業所のサービス計画等を確認・分析し、必要に応じ訪問にて指導助言する必要がある。

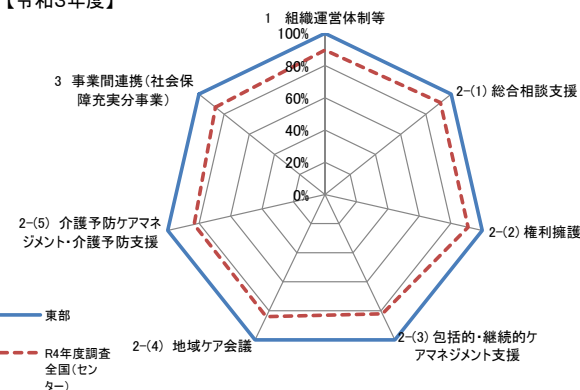
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護 相談協力員(人)	高齢者介護 相談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
6 東部	795	2,105	16	12	0	0	10	1	1	0	86	2

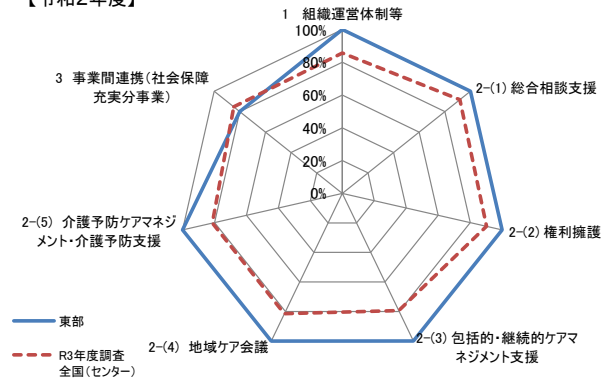
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っており、全ての項目が達成されている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの項目は、3事業者間連携である。

7 おおの地域包括支援センター 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・地域の方々と顔の見える関係作りをおこない何でも相談できる存在としての包括を目指す。
- ・地域の活動に積極的に参加・支援を行いながら、様々な連携を強化していく。
- ・地域の認知症高齢者の見守り体制の構築を図る。
- ・自立支援・重度化防止に向けて、他職種協働で介護予防に努める。

【実施結果】

- ・地域の活動や集会など新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、顔を合わせての交流などの機会が減少している。
- ・地域ケア会議はZOOMなどを利用し、ハイブリット型会議で毎月実施ができた。
- ・「つながり隊」の見守り活動についての意見交換の場は1回設けることができた。
- ・認知症の相談から受診、治療につないだケースもあったが、受診につながらず、継続的に訪問し見守りを行っている方も複数名対応している。

【評価・課題分析】

- ・コロナ禍の中で対策を取りながら様々な地域の活動の実施に向け方法を考えることから始めていく。
- ・ZOOMなど利用し会議は実施できているが今後は質を追求できるように様々な機能をみんなで活用していけるような働きかけを行う。
- ・見守り活動については、つながり隊の活動を中心に地域のネットワークづくりを目指す。

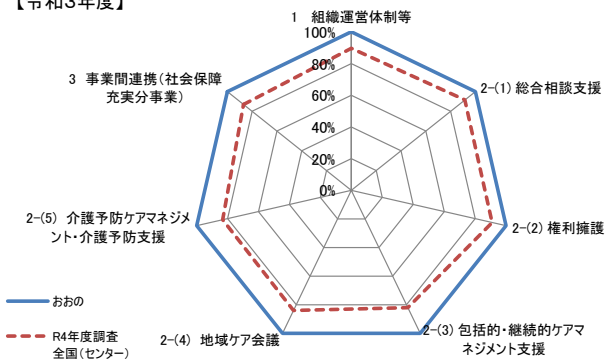
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
7 おおの	974	1,643	1	9	0	2	13	1	4	3	90	1

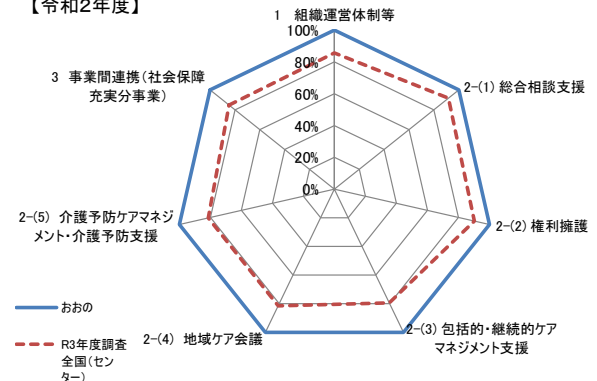
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っており、全ての項目が達成されている。

8 地域包括支援センター寿永 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

介護予防・生きがいづくりの推進

- ・地域の高齢者が健康を保ち、いきいきと自分らしく暮らし続けることができるよう介護予防・重度化防止に積極的に取り組むことができる環境づくりをすすめる。
- ・地域の見守りやサポート力を強化する。
- ・全戸訪問 個別訪問や町会との情報交換等を通して支援が必要な高齢者の早期発見に努める。

【実施結果】

- ・コロナ禍で地域活動に制限がある中でも、フレイル予防・健康づくりの推進のための支援を行うことができた。
- ・包括の手を離れ自主化できた6団体にも継続的に関わり、団体主催の行事等に積極的に参加したり、健診の重要性等の出前講座を実施したり、後方支援を継続している。
- ・地域の見守りやサポート力を強化するために、二つの町会をランチ在介と協力し戸別訪問により実態把握を行い、その結果を踏まえ地域の核となる町会長や民生委員と地域ケア推進会議を行い、情報共有を図り、地域の課題について検討した。

【評価・課題分析】

- ・生活機能が低下していたり、認知症についても進行している状態で相談に繋がるケースが多いことから、地域のサポート力強化を継続し早期対応に努めていく。
- ・多様な地域活動の場において、高齢者が生きがいを持ち活き活きと生活できるよう、フレイル予防に限らず必要な情報を提供し、健康づくりを推進できるよう努める。
- ・コロナ禍が続く中、今後も新しい生活様式に気配りしながらしっかり地域に足を運びできることを施していく。

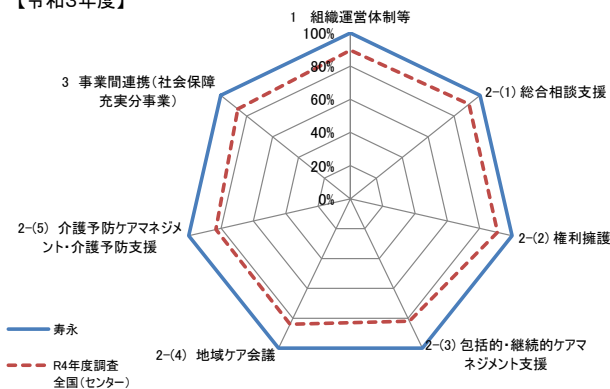
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制; 高齢者虐待 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
8 寿永	369	2,860	26	29	2	9	17	0	0	0	78	0

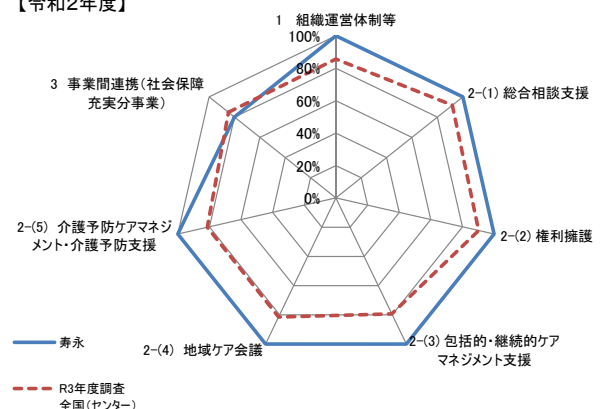
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っており、全ての項目が達成されている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの項目は、3事業者間連携である。

9 地域包括支援センターのぎわ 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・地域住民や地域関係機関等が参加している地域支援ネットワーク会議(日常生活圏域ケア会議)の継続及び新たな地域での開催を目指し、担当エリアの地域課題抽出、検討を行う。
- ・地域資源の再把握を行う。
- ・出前講座の継続、新たな場所での出張相談会の開催による地域包括支援センターの周知及び健康増進への意識づけや動機づけを行う。
- ・自立支援、権利擁護の視点に基づいた相談支援を行う。
- ・包括職員の異動により専門職としてのスキルアップや事業内容等についての資質向上につながるようOJTおよびOff-JTを行う。

【実施結果】

- ・地域ケア個別会議により地域課題は抽出されたが、新型コロナウイルス感染症にて地域活動が休止状態となり、地域支援ネットワーク会議は開催できなかった。
- ・担当エリア内社会資源マップを見直し、冊子を更新し、担当エリア内事業所や高齢者介護相談協力員等へ配布することができた。
- ・出前講座は依頼のある町会、団体では実施できたが、活動を休止している地域もあるため、担当エリア内すべての地域での出前講座等は実施できなかったことから、広報誌を作成し各町内の町会長を通じて閲覧、また、団地住民へ地域包括支援センターやフレイル予防等のチラシを配布しながら戸別訪問を実施。チラシを見た方より介護相談が2件あった。
- ・生協出張相談会は、4～12月まで月2回実施し、地域包括支援センターの周知やフレイル予防等についてのチラシの配布ができた。
- ・総合相談において、多問題ケースが多く、多様なニーズや長期化するケース等は、地域ケア個別会議を開催し、多職種間で検討しながら支援することができた。
- ・認知症カフェについては、感染予防のため、お散歩会へ変更し実施できた。
- ・権利擁護の研修や地域ケア個別会議は、オンラインで実施できた。
- ・包括事業所内において、「ケアマネジメントの視点」、「多問題ケースへの関わり方」の勉強会を実施することができた。

【評価・課題分析】

- ・新型コロナウイルス感染症対策により、計画していた事業が中止となったが、認知症カフェ、権利擁護の研修や地域ケア個別会議は、工夫して実施できたことから、目標を達成するためにコロナ禍でもできることを検討、工夫する必要がある。
- ・コロナ禍においても相談しやすい環境をつくるため、町会長や民生委員等との顔の見える関係づくりを継続する必要がある。

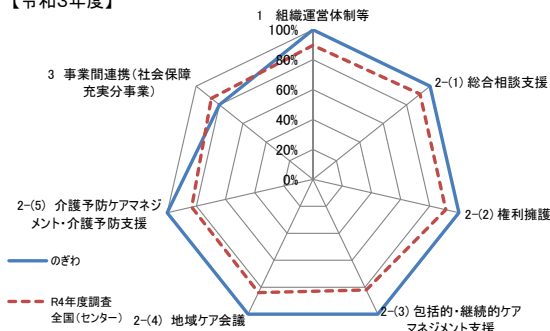
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)	
			成年後見制; 度(件)	高齢者虐待; (件)	消費者被害; (件)	困難事例 (件)							
9	のぎわ	827	1,878	4	5	1	2	9	1	1	2	61	2

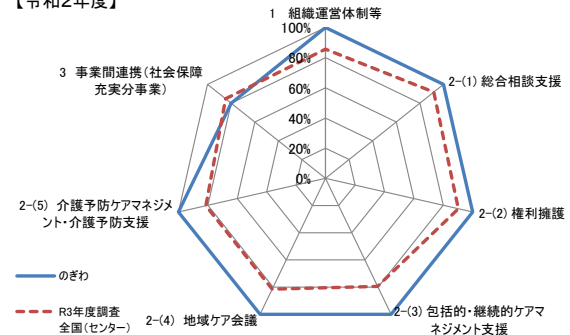
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・3事業者連携以外は、すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、3事業者間連携が改善されなかった。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
3事業者間連携(社会保障充実分事業) 55 生活支援コーディネーター・協議体と地域における高齢者のニーズや社会資源について協議をしているか。	・地域ケア会議等の開催はしたものの、コロナ禍により、参加者の制限等を行っており、連携が不十分であった。	・令和4年度からは、コロナ禍においても工夫し、地域ケア会議や地域支援合い会議等、それぞれが開催する会議において、連携を図っている。

10 地域包括支援センターみちのく 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・地域包括支援センターの周知活動の継続と、介護予防事普及啓事業や実態把握件数を増やし、介護予防に関する活動を重点的に行う。
- ・各地域への出前講座や出張相談等の機会を設けポピュレーションアプローチを含めた健康教室や認知症理解への取り組みとした脳の健康チェック等を組み合わせた包括的な内容の開催を行う。
- ・地域の高齢者介護相談協力員との関わりを強くするため連携機会を設け、協力員やボランティア参加者を増やす活動を行う。

【実施結果】

- ・普及啓発活動に関しては新型コロナウイルス感染症により継続した活動を行うことができなかった。
- ・出前講座や出張相談等は、ショッピングセンターで年に1回行ったがそれ以外は実施できていない。
- ・実態把握については一地区に関して一人暮らしの高齢者へのアプローチを行えたがそのほかの地区については来年度の課題となった。

【評価・課題分析】

- ・新型コロナウイルス感染症による制限の中で出張健康相談の一環でショッピングセンターで体力測定を行うことができたが、感染対策等を考慮した上での開催には時間と予算がかかることになり事前の計画との違いがあった。また開催場所へ迷惑をかけないように関わる気遣いは今後の開催に活かされるようにしたい。
- ・実態把握に関しても、開催地区を増やし、一般介護予防への事業へ繋げる足掛かりとして次年度にはもっと多くの地域を回れるように計画を行う必要がある。

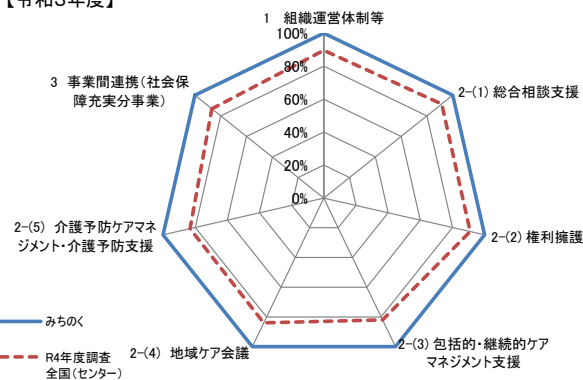
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制; 度(件)	高齢者虐待; (件)	消費者被害; (件)	困難事例 (件)						
10 みちのく	661	2,229	6	4	1	2	14	1	1	74	2	

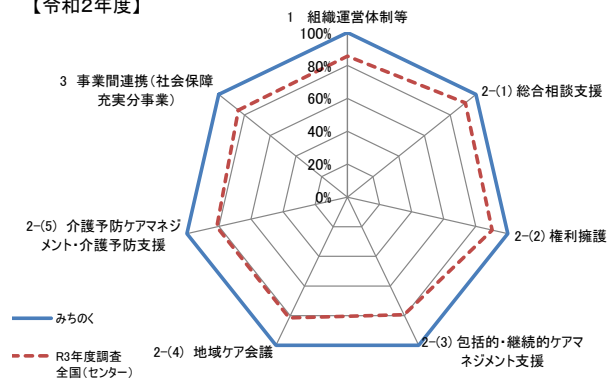
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っており、全ての項目が達成されている。

11 地域包括支援センター浪岡 令和3年度活動状況と運営評価結果の概要

1. 活動状況 (R3年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

【重点目標】

- ・地域における関係機関との相互理解と連携。
- ・後見申し立ての支援に関しての見直し。
- ・圏域内の関係機関での虐待通報に関する共通理解が図れるよう取り組む。
- ・感染防止対策を講じながら、出前講座、活動支援等、依頼があれば応じていく。
- ・地域に向けてフレイル予防に関しての周知が図れるようにする。

【実施結果】

- ・関係機関との顔の見える関係作りに関して、新型コロナウイルス感染症の措置として、密を避ける対応を行っていたため、一堂に会して集まることは行わず、オンラインによる会議や、集合であっても人数の制限を行ったうえでの短時間での終了、又は電話での相談を行った。
- ・地域に向けフレイル予防に関しての周知は図れていない。

【評価・課題分析】

- ・外出自粛、密回避のための対策が取られていたことにより、積極的な活動は行われなかった。
- ・オンラインの会議は慣れないこともあり、時間を要したため、予定通りに進めることが出来なかった。
- ・フレイル予防に関して、どのように伝えれば地域に伝わりやすいのか等、包括内での話し合いが必要だと感じている。

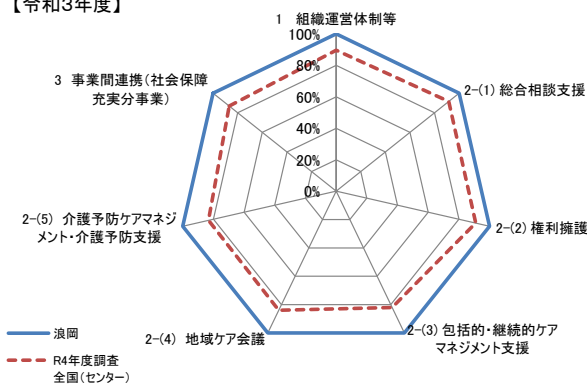
2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制; 高齢者虐待 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
11 浪岡	1,101	2,114	19	6	0	6	8	1	2	2	48	2

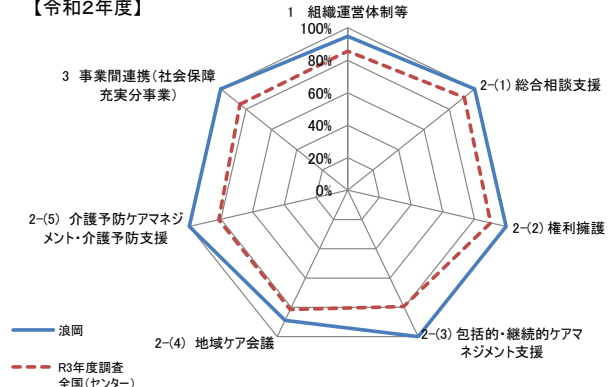
3. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの項目は、1組織運営体制、2-(4)地域ケア会議である。

12 青森市 令和3年度活動状況と自己評価の概要

1. 活動状況

【地域包括支援センターに関する施策】 青森市高齢者福祉・介護保険事業計画第8期計画(R3年度からR5年度)から抜粋
 「地域包括支援センターの機能の充実」
 ・地域包括支援センターの体制強化
 ・他機関との連携強化
 ・効果的な運営の継続
 ・地域ケア会議の推進

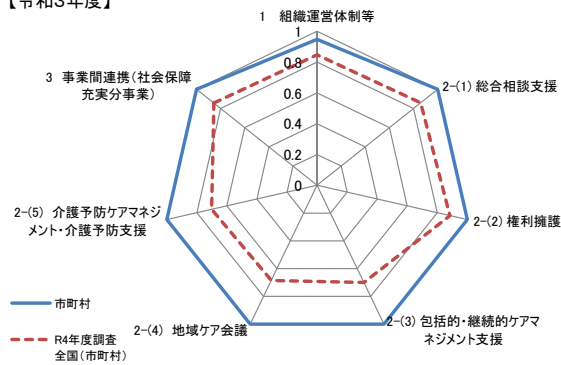
【実施結果】
 ・基幹型地域包括支援センターとして、各地域包括支援センターの統括調整や人材育成、後方支援などを実施した。
 ・各地域包括支援センターと包括評価の結果や包括の活動について個別に意見交換を行い、情報を共有した。
 ・新型コロナウイルス感染症の影響のため、ZOOMを用いるなどし、会議や研修会を開催した。
 ・各圏域の虐待や認知症などの対応困難な事例について、相談に応じ、同行訪問等の支援を行った。
 ・青森市地域密着型サービス等運営審議会において、地域包括支援センターの評価を行い、運営状況等について情報を公開した。
 ・地域ケア会議に参加し、地域課題を共有し活動の支援を行った。

【評価・課題分析】
 ・各地域包括支援センターの評価が改善され、各包括の機能の充実を図ることができた。
 ・地域包括支援センター連絡会やセンター長会議を活用し、情報の共有及び協議を繰り返し行い連携を強化することができた。
 ・地域ケア会議への参加や困難事例への支援対応等、また、人材育成のための研修会の開催等により各包括の後方支援を実施し、運営継続のための支援ができた。

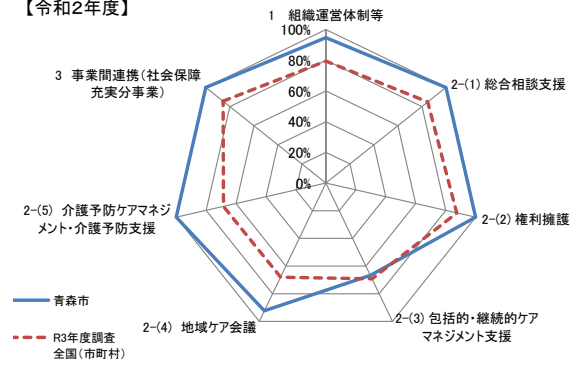
2. 運営評価

(1) 令和3年度と令和2年度の比較

【令和3年度】



【令和2年度】



(2) 令和3年度評価分析

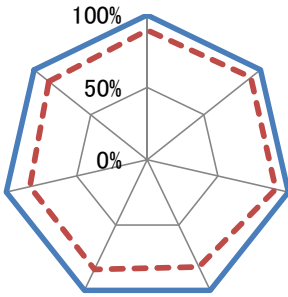
- ・2-(1)総合相談支援以外は、すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの項目は、2-(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援、2-(4)地域ケア会議である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
1組織運営体制等 8 センターの3職種(準ずる者含む)一人当たり高齢者数(圏域内の高齢者数/センター人員)の状況が1,500人以下であるか。	・職員一人当たり高齢者数は、1,579人である。	・令和3年度から地域包括支援センターの職員を4人から5人に増員し、職員一人当たり高齢者数は、前年度より改善されている。 なお、本評価では1,500人を指標としており、未達成となったものの、「青森市地域包括支援センターの包括的支援事業の実施に係る基準を定める条例」に定める人員基準は満たしている。

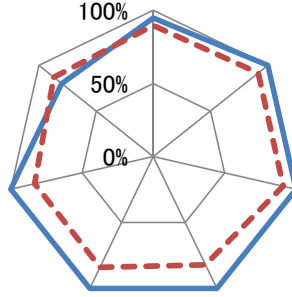
令和3年度地域包括支援センター運営評価 レーダーチャート一覧

— 各自己評価
- - 全国平均

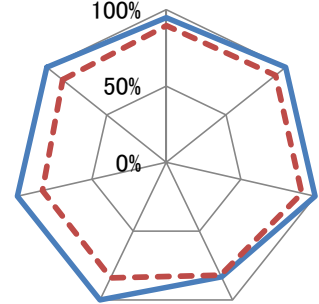
1 おきだて



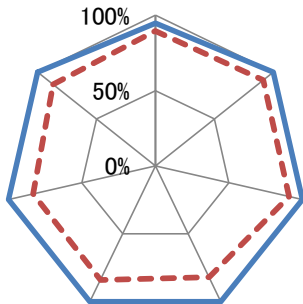
2 すずかけ



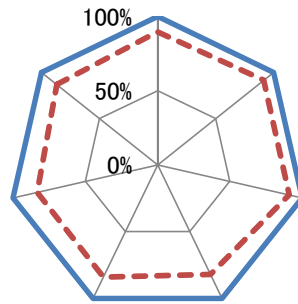
3 中央



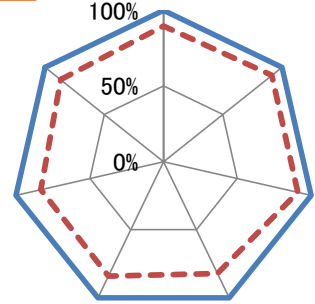
4 東青森



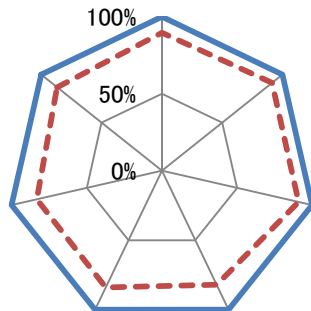
5 南



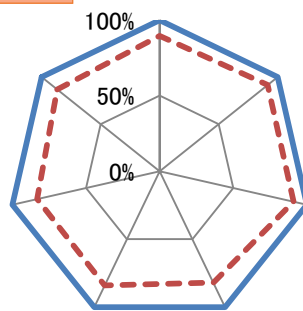
6 東部



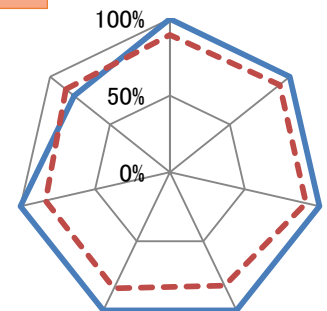
7 おおの



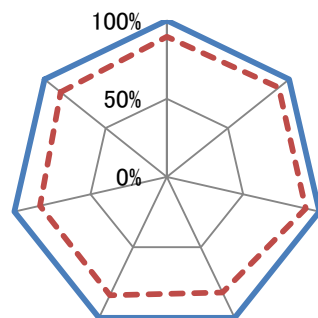
8 寿永



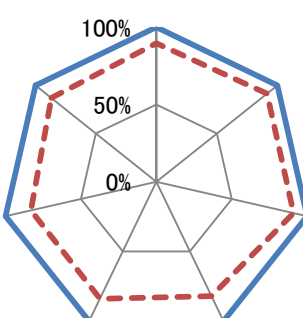
9 のぎわ



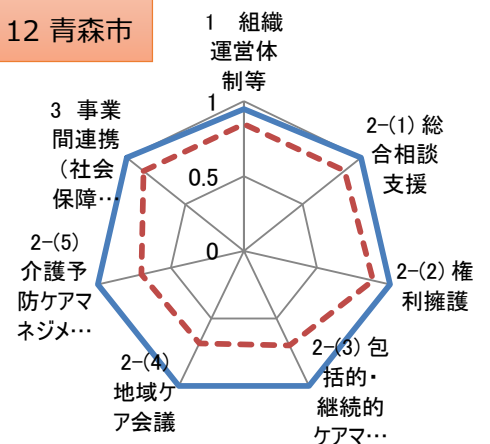
10 みちのく



11 浪岡



12 青森市



青森市地域包括支援センターの活動実績一覧

(1)各日常生活圏域の基本情報について(R4.4月末時点)

		高齢者人口(人)	職員数(人)	職員一人あたりの人口(人)	高齢化率(%)
1	おきだて	7,928	5	1,586	30.30%
2	すずかけ	8,834	5	1,767	29.56%
3	中央	8,090	6	1,348	33.77%
4	東青森	8,589	5	1,718	30.15%
5	南	8,914	5	1,783	30.61%
6	東部	8,342	5	1,668	36.60%
7	おおの	8,998	5	1,800	24.26%
8	寿永	7,994	4	1,999	32.21%
9	のぎわ	7,268	5	1,454	34.11%
10	みちのく	6,018	5	1,204	32.73%
11	浪岡	5,890	5	1,178	33.26%
	合計	86,865	55	1,579	31.05%

(2)令和3年度の活動状況

		実態把握(延人数)	総合相談件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア会議(回)	認知症多職種協働研修(回)	脳の健康チェック(回)	認知症カフェ(回)※	高齢者介護相談協力員(人)	高齢者介護相談協力員研修(回)
				成年後見制度(件)	高齢者虐待(件)	消費者被害(件)	困難事例(件)						
1	おきだて	985	1,491	9	3	0	5	15	0	1	1	76	0
2	すずかけ	732	2,400	5	1	1	7	8	0	4	1	49	0
3	中央	696	1,514	6	1	0	2	8	0	1	1	106	0
4	東青森	1,458	2,898	3	5	2	1	16	1	4	1	73	1
5	南	852	1,303	2	4	0	14	21	1	13	7	66	2
6	東部	795	2,105	16	12	0	0	10	1	1	0	86	2
7	おおの	974	1,643	1	9	0	2	13	1	4	3	90	1
8	寿永	369	2,860	26	29	2	9	17	0	0	0	78	0
9	のぎわ	827	1,878	4	5	1	2	9	1	1	2	61	2
10	みちのく	661	2,229	6	4	1	2	14	1	1	1	74	2
11	浪岡	1,101	2,114	19	6	0	6	8	1	2	2	48	2
	合計	9,450	22,435	97	79	7	50	139	7	32	19	807	12